週　報
こひつじ
第40巻　49号
大津キリスト教会
菊池郡大津町室119
TEL 096-293-4470
FAX 096-293-4961
牧師　米村　英二

# あなたが正しいからではなく

知りなさい。あなたの神、主は、あなたが正しいということで、この良い地をあなたに与えて所有させられるのではない。あなたはうなじのこわい民であるからだ。（申命記 九の六）

## その一　うなじのこわい民

イスラエルの民が長い荒野の生活を終え、いよいよ約束の地に入ろうとしているときである。神は、一つのことを、念を押して言われた。

「あなたは心の中で、『私が正しいから、主が私にこの地を得させてくださったのだ』と言ってはならない」（申命記 九の四）

神がイスラエルを選ばれたのは、決して彼らが正しかったからではないというのである。

事実、彼らは神に反抗のし通しだった。

モーセによって紅海を渡り、エジプトの軍勢から解放されたとき、彼らはタンバリンをたたいて、救われたことを喜び、神の偉大な力を讃美したはずだった。ところが、まもなく荒野にきて水がないと、すぐにモーセに向かって不満を言った。

「私たちののどは渇いて死にそうだ。エジプトに墓がないから、あなたは私たちを荒野に導き入れたのか」と。

にもかかわらず、神はそんな彼らに十分な養いを与え、聖書にあるように、彼らの着物はすり切れず、彼らの足がはれることもなかったのである。（申命記八の四を参照）

それだけでなく神は、彼らのために約束の地をも用意されていた。

神は何と親切に彼らを扱われたことだろう。

人類全体の進歩に貢献した国民を歴史的国民と言うそうだが、イスラエルはまさにそういう国民だったと言えるだろう。

四国ほどの小さな国土にもかかわらず、モーセのような大政治家、ダビデのような大詩人、イザヤ、エレミヤ、エゼキエルのような大預言者、そしてついにイエス・キリストを送り出して、彼らは全人類に大きな影響を与えてきたのである。

何よりも聖書を人類に提供したのは彼らだった。いったいこの聖書によって人びとの心はどれほど高められたことだろう。

なぜイスラエルは、これほどまでに人類に貢献できたのか。

彼らがすぐれていたからか。正しかったからか。そうではないと聖書は言う。

同様に、私たちがクリスチャンになったのも、私たちが正しかったからではない。私たちはみな、イスラエルがそうであったように、「うなじのこわい」者であって、不満だらけの人生を送ってきたのである。

まさに私自身が「うなじもこわい」者だった。今でもそうである。

神を信じていると言いながら、私の心配性は今も変わらない。

長男が二歳の頃だったろうか。妻は、ある会社からフィリピン研修生のための通訳を頼まれたのだが、長男を連れて出かけた。

事故が起こったのは、工場長の子どもたちと遊ばせていたときだった。ちょっとしたすきに「ピッ、ピッ」という音を立ててバックしてくるトラックに長男がはねられたのだ。車輪の間をくぐり抜けて、前から長男が出て来るのを窓越しに見ていた一人の女性が、悲鳴をあげて妻を呼んだ。一瞬、恐怖が妻の全身を襲った。しかし長男が

ぐったりしているのではなく、大声で泣いているのを見て、
「ああ、大丈夫だったのだ」
と彼女は安堵したという。すぐに救急病院に運ばれたが、大事にはいたらなかった。
その日、私は書斎で説教の準備をしていた。五時過ぎには帰るはずの妻と子どもが暗くなっても帰って来ない。どうしたんだろうと不安に思っていると、
「ガラガラッ」
と玄関の戸が開いた。見ると長男が母親の腕に抱かれ、その頭は包帯でまかれている。うしろには男の人が立っている。トラックの運転手だった。
私は、すぐに一大事が起こったのだと思った。
「どうしたの！」
と叫ぼうとする私をさえぎるように妻は言った。
「ちょっと待って！　落ち着いて」
それから一呼吸して、
「結論から先に言うわ。大丈夫だったの。だから心配しないで」
悲観的な私の性格をよく知っている妻は、私の扱い方を心得ていたのだ。病院から電話をしてこなかったのもそのためだったのだろう。
何かが起こると、私は最悪のことを予想して悩む。
「人間性のなかできわだって悲劇と言われるものは何であろうか。それは残忍な宿命に対する信仰である」
とアメリカの詩人エマソンは言ったが、まさに私は、その「残忍な宿命信仰」の熱心な信者だったのだ。
もし、私がクリスチャンになっていなかったなら、人生の不安や心配は限りなく私の心をおびやかしていたことだろう。
妻はあるとき私に言った。
「子どもに何かあるたびに、私が責められるなら、もうやってゆく自信はないわ」
牧師でありながら、私の心配性は妻を苦しめていたのだ。そんな私を妻はよく忍耐してくれたものだと思う。（続）

**********

## 今日の礼拝

**********

○クリスマス合同礼拝。午前一〇時から。ＣＳ子どもたちの賛美、少年少女合唱団の合唱、ユースによる劇など。
○礼拝後、大掃除。

**********

## 先週の礼拝

**********

台湾から七人の方がたをお迎えしての礼拝でした。それぞれが賛美し、証をしてくださいました。日本が初めてという人もいましたが、それでも、日本の景色、文化、食べ物、そして日本の人たちへの親しみと愛情を豊かに持ちながら、話してくださるので、こんなに愛されていいのだろうかと感じるほどでした。
台湾の人たちが親日であることは聞いていましたが、それにキリストの愛を加えた彼らの賛美と証は、私たちの心を励まし、慰めてくれました。
熊本にＴＳＭＣの工場ができ、台湾からの人びとが多く在住するようになり、その人たちに福音を伝えるために来られたのですが、大津教会の協力を求めて来られたことがきっかけで、このような交わりができるようになったのは幸いなことかと思います。

**********

## 先週の出席

**********

○礼拝参加者は八三名（男二六女五七）。それに子どもが四名、合わせて八七名でした。
○合志文利・千恵夫妻の長女誉名さん（オーストラリア在住）が参加。しばらく日本滞在の予定。

**********

## 礼拝の案内

**********

○二九日（日）は今年最後の礼拝ですので第一礼拝、第二礼拝ともに聖餐式をします。
○来年の元旦礼拝は午後二時から。礼拝後、ぜんざい会。

**********

## ローズンゲン

**********

二〇二五年のローズンゲンが届いています。一部一三〇〇円です。

**********

**牧師のメールアドレス**
yonemura@ja2.so-net.ne.jp